

大阪金ヶ崎の冬にあなたの手を

金ヶ崎町の労働者越冬の100日を

はじめる

大阪府労働局よりお知らせ。

昨年の冬、金ヶ崎の労働者への「越冬カーペン」を贈りかけてから、もう一年たちました。昨年は、日本各地のカーペン、カーペン（一八八件）、三田（資料）四六（件）をいただいたが、このたびは、報告書「金ヶ崎一九七五年冬」参照、集計三〇〇円。しかし、金ヶ崎の状況は少し変わりました。厳しい冬を乗り越えて、今年もまた、わたしたちは、みなさんに越冬準備支援を訴えなければなりません。残念ながら、越冬のたまたかには、労働者が死んでいくのを全視することになるからです。

1. 一九七五年の就労状況
 三人に一人はアスレ（失業者）
 週に仕事は一〜二回

金ヶ崎は、日本経済のパロメーターのようなので、石油ショック以来、不況はさらに押しよせてきました。たとえば、一時は、四百人を減えた労働者、住民のこの不況では、金ヶ崎で暮らしを営めない、日本各地へ働きに出ていきます。いま、人口は、三万前後です。年末には、各地から帰って来ますので、大変です。

また、就労状況（日雇労働者の就職状況）は、決して好転していません。今夏、「あいしん労働福祉センター」の大阪府労働部の外部団体（は、金ヶ崎の労働と福祉の現状について数回振りに「報告書」を出しましたが、不況はその統計にはつきり出ています。就労については、センターを通じた一年間の就労人口は

- 一九七二年 七十八万六千九百三人
- 一九七五年 三〇万三二千八人

となつていますが、石油ショック前の好況期に比べると、昨年は就労率四〇パーセント以下といつていいでしょう。その中で、具体的にいいペースで、七二年を基準にすれば、七二年は三〇人中一〇人が就労できたとするれば、七五年は一〇人中三〜四人、つまり六〜七人は失業といつていいになります。また、この日中

六〜七日は仕事がないとしか言いがえられません。しかし、これは毎日仕事のある若い人も入れた平均ですが、個々の場合はもっと悪いと想像しなければなりません。週に一〜二度、月に一回〜五回という状況になります。賃上げ以前の問題です。生活する一食をギリギリにする保障もありません。いま、仕事がないカーペン、冬期は、労働者団体の炊き出しにたどり着き、越冬のびねはなりません。と、はや「なまけた」で、より労働者団体の保障を訴えています。

仕事が保障されないというのに、金ヶ崎では「人権」が無視されていますから、行政による死者が続出します。一九七五年は二〇〇人を減えています（統計より、金ヶ崎については正確にとらえていません）。

仕事保障や入院のための拠点として、労働者は「公園の使用」を大阪市にしましたが、不許可でした。結局、昨年の越冬のたまたかには、テントを張り出し、炊き出しをすることができず、外の場所を炊き出しを行い、公園で弁当をばるといふ不自然な状況を続けなければなりません。

二のよう不況のなかでただたかれた越冬とその後のたまたかには次のようにまとめることができます。

2. 一九七五年越冬、小中入 *キリスト教関係

- 一九七五年
 - 10月7日 * 関西キリスト教都市産業問題協議会は越冬支援センターを実施することを決定
 - 11月7日 * 支援センターの世話人会の手で、全国一千の教会、学校に支援センター案内と五〇万円カーペン申請をかくる
 - 22日 第六回金ヶ崎越冬準備委員会招致
 - 12月10日 花園公園で夕食の炊き出しはじまる
 - 18日 一回一〇〇人以上のアスレ（失業）た労働者が夕食をたべに来る
 - 22日 花園公園で行政による死者である。
 - 23日 労働者のアスレへ、炊き出し、昼食二回。 * D.U.M. 協友会、市民生局に「越冬について」の申し入れ提出
 - 24日 * いこいの家へ金井愛明氏のクリスマススイス

三島公園で野宿へアオカンする人たちに力
しーラウスを配る。

12月27日 * トリイM越冬支援キヤンズはじまる。会場は
津守のカトリック教会司祭館。参加者は一日
五日までで延一六一人。一日平均一六人。活
動は、炊き出し、バーガーによる募金づくり。

29日 大阪市民生局による無料臨時宿泊所開所。一
三〇〇人収容というが開所中に入所できなか
った労働者が炊き出し弁当を食べに来る。
1月5日 労働者、大阪市に対して抗議
* 第一次支援キヤンズこの日を終る。

12日 臨時無料宿泊所開所
* この日から、協会会により夕食炊き出しが一
層一杯つづけられた。

15日 救急車による病院のたらいまわしで、労働者
西本十一死亡。病後に抗議。
19日 * 二月からの第二次支援キヤンズのためのカン
パ要請を全国の諸教会へ一五〇〇しに出す。

28日 * 釜ヶ崎の近隣の教会に、釜ヶ崎越冬の意味を
訴え、大阪府に対して抗議文、要請文を出す
二二二になり、各教会を訪問
2月1日 * 第二次支援キヤンズ。協会会にかわりトリイ
Mの支援キヤンズが夕食の炊き出し担当。会
場西成教会。

17日 * 大阪市に対して、教会、個人からよせられた要
請をまとめて提出
* 西成教会で「越冬支援・映画と討論の夕」
を開く。

29日 * トリイMによる支援キヤンズ終る。
4月3日 東京・山谷、横浜・寿町、大阪・釜ヶ崎の労
働者が共同で、労働者と「仕事保障」を由交
24日 * KLM後援で「釜ヶ崎地域問題研究会」活
動をはじめめる。越冬のたまたかいの続き。

6月14日 第六回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会は、三月一
日をもって解散、同日付で「釜ヶ崎仕事保障
闘争委員会」が結成された。以来、同委員会の
活動の一つとして続けられてきた炊き出しの
拠点(花園公園)が、大阪市による「春の大
掃除」の名目で、機動隊のバリケードによら
られて、シヨバルカーで清掃される。

大阪市の職数は、この大掃除は人権を無視し
た「不当」のものだと非協力的であった。
6月29日 * 「地域問題研究会」主催(日雇労働協力)に
よる「よみかき教室」、週二回、夜、いこい
の家を会場にひらかれる。

7月1日 釜ヶ崎日雇労働組合結成
9月7日 4月3日に引きつづき、山谷、寿町、釜ヶ崎
の労働者三団体と労働者と第二回国交。
9月上旬 * 「地域問題研究会」越冬について話し合い
また準備にとりかかる。
10月25日 * トリイM、今年も越冬支援者結入会をつくり
越冬支援をキめる。

3. 今年の越冬のたまたかい
・炊き出しのためのカンパ(二〇万円)
・夜間パトロールへの参加

わたしたちは、以上のような昨年のたまたかいを小まえたうえ
で、今年もまた釜ヶ崎における「テラス」がどうとも集中する
冬一二月一二月一越冬支援のたまたかいをするにしようとした
わたしたちは、今年、釜ヶ崎日雇労働組合などが中心になっ
てすすめられる第七回越冬のたまたかいを支援するにとことん
釜ヶ崎で活動するキリスト教のボランテニアグループ協友会
(いこいの家・金井啓明、希望の家・ストローム、老人食堂・
ハイソリ、七神父など)とそれにわたしたちの手でできる活動
も展開したいと思えます

具体的には、
第一に、炊き出しへのカンパです。十二月一二月末までの約三
ヶ月間、夕食の炊き出し代をカンパしたい。一日約一万円とし
て九〇日で約一〇〇万円。また、衣料(シャツ、くつ下、作業
着(背広は不要)、ジャンパー、タオル、毛布、小じん)と食
糧(米、みそ、しょう油、油など)
第二は、行旅病による死を防ぐための夜間パトロール
第三は、行政の責任を求め大阪府、市への要望活動。
以上を計画していますので、具体的に協力ください。
一九七六年十一月

関西キリスト教都市問題協議会
代表 二平 田 折口
越冬支援者結入会 前川 島 宗 十甫
大阪府北区神山町四〇一四 東梅田教会会館
関西キリスト教都市産業問題協議会(KLM)